

公募企画事業

Open Call Programs

SCARTSでは、札幌の文化芸術に寄り添い、支え育むと共に、文化芸術の持つ創造性を生かしたまちづくりに貢献することを目指して、公募企画事業を行っています。

「公募企画事業」とは、SCARTSを会場とした文化芸術に関わる企画を、個人・事業者・団体を問わず広く募集し、実施している事業です。応募された企画は、社会性や発展性、SCARTSのミッションとの関わりなどの観点から選考委員が審査し、採択された企画に対しては、以下のサポートを行っています。

誰にでも、新しい表現を創造するチャンスを

①SCARTSの会場や備品の無償提供

②SCARTSのスタッフによる技術面でのアドバイスやサポート

③チラシ2万枚相当の印刷費を負担し、市の文化施設への配布等の広報サポート

④プロのカメラマンによる記録写真の撮影を提供

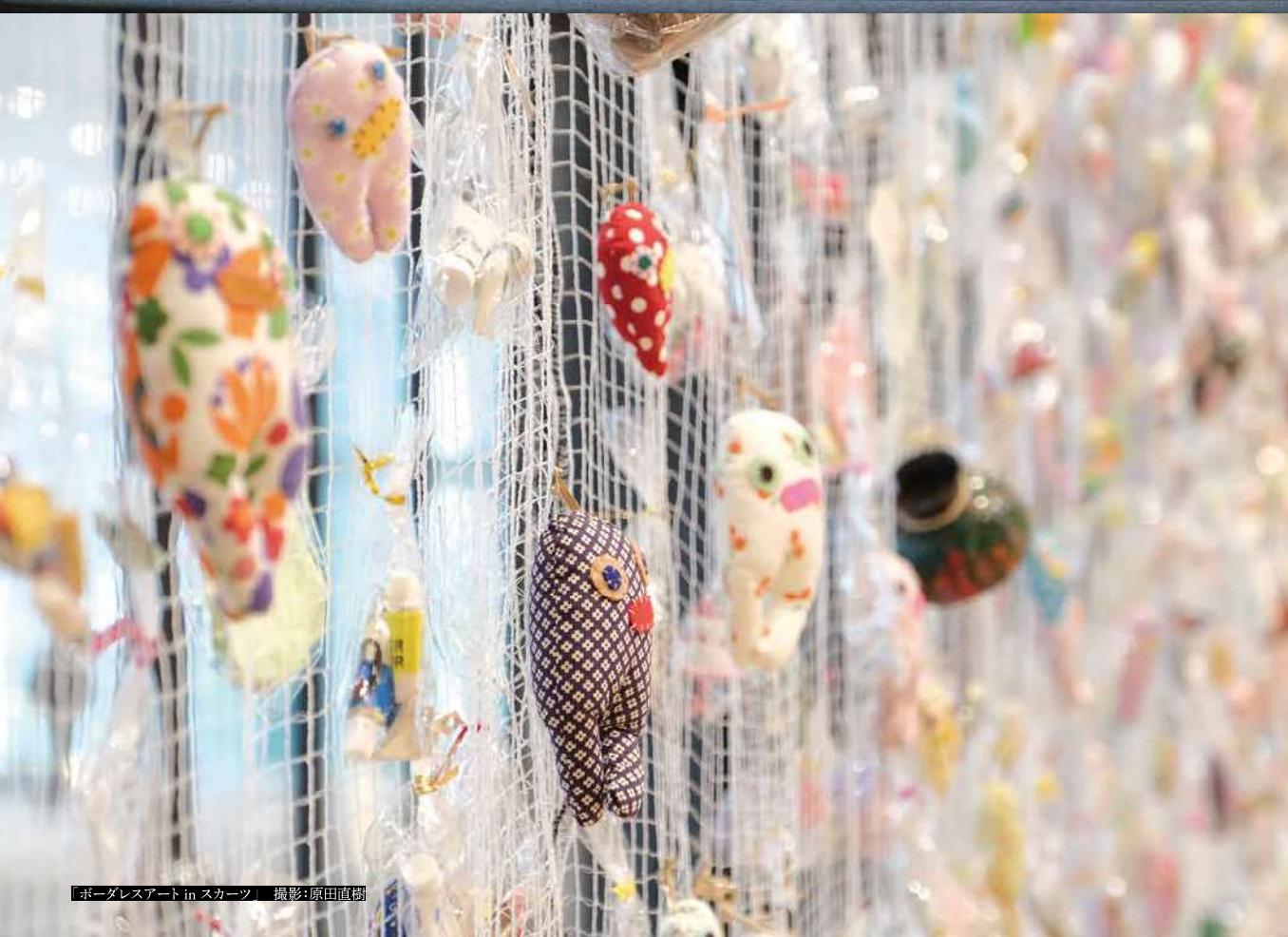
(以上、2018～2019年度実施実績)

SCARTSと共に企画を実施することによって、広報面や記録面を強化します。また、SCARTSが技術的なサポートを行うことで、企画者が思い描いた展示や公演等のイメージを可能なかぎり実現し、より質の高い企画の実施と経験の蓄積を目指します。さまざまな内容の事業を実施することを通して、施設利用の可能性を拓げ、SCARTSの持つポテンシャルを多くの人に知つてもらう機会にもなっています。

2018年度から2019年度にかけては、バラエティ豊かな15の事業を実施しました。



「8人の女たち展」展示風景 撮影:酒井広司



「ボーダレスアート in スカーツ」撮影:原田直樹

Sapporo Photo 2018 札幌「写真都市」祭

会期 2018年12月1日(土)～10日(月) 10:00～20:00
会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B・C
主催 NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク、
札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
協力 「東京写真月間2018」実行委員会(公益社団法人日本写真協会)、
ニコンイメージングジャパン株式会社、ソニーストア札幌、
さっぽーとさっぽろ(公益財団法人 札幌市中小企業共済センター)、
札幌市写真文化振興事業

北海道をベースとする多ジャンルの写真家が集い、活動するNPO法人 北海道を発信する写真家ネットワーク「THE NORTH FINDER」の企画として開催された、カメラを手にするすべての人を主役とするイベント。市民が撮影した2018年11月3日の札幌を時系列に並べた公募写真展「A Day in the Life of Sapporo」や、「東京写真月間2018」と連携した写真展、北海道胆振東部地震チャリティ・フォトマーケットやシンポジウム、ポートフォリオミーティングなど、撮る・見る・語る・買う・飾るなどのさまざまなアプローチで、多彩なプログラムを開催しました。



東京写真月間2018 in 札幌 以下、撮影:中村健太



シンポジウム「『写真都市・札幌』を考える」



公募参加型写真展「A Day in the Life of Sapporo」



東京写真月間2018 in 札幌



「写真評論家飯沢耕太郎ポートフォリオレビュー」

公募企画事業

一人ひとりの創造性をささえる

NPO法人 北海道を発信する写真家ネットワーク “THE NORTH FINDER”

写真を通して広く北海道のイメージを高め、より深く北海道を知ってもらうために、北海道をベースに活動する写真家有志が集まって2006年に発足。現在約40名の会員が活動し、会員の作品による展示・紹介のほか、写真教育や、札幌市が所蔵する歴史写真等を活用し、歴史の面から札幌の魅力を紹介する「北一条さっぽろ歴史写真館」(北一条地下駐車場連絡通路内)の展示を担当するなど、写真資産の活用も含め、広く写真文化発展への貢献を目指している。



第2マルバ会館 ムービング・ウインター

会期 2018年12月23日(日・祝) 13:00~17:00

会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ

主催 第2マルバ会館、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

入場料・参加費 上映会:予約1,000円、当日1,200円／ワークショップ:1,000円

ノマドシアター・第2マルバ会館の企画による、体験型の映画上映イベント。SCARTSコートで開催された「オーバーハウゼン国際短編映画祭セレクション作品上映会」では、巨大なスクリーンの前にマットなどの敷物を敷いたスペースを広くとることで、小さな子どもから大人まで幅広い年齢層の参加者が、思い思いのスタイルで上映会を楽しみました。SCARTSスタジオでは、「第2マルバ会館アニメ俱楽部」と題して、ロトスコープ(実写の動画をなぞり描きしてアニメにする技法)アニメーションを制作するワークショップを開催。映像の新しい楽しみ方を知る1日になりました。

第2マルバ会館

2016年から2017年に、月1・2度のペースで、ローカルの映画監督、映像作家の作品を中心に自主上映を実施。地下鉄自衛隊前駅前にクリーニング店をDIYリノベーションした上映館があったが、建物の老朽化により閉鎖。現在は場を固定せず上映企画を実施するノマドシアターとして展開している。

代表:松永芳朗(スタジオロッカ代表)、企画:大島慶太郎(映像作家)

リアル謎解きゲーム「モモイロの箱」

会期 2019年1月17日(木)~27日(日) 11:00~21:00(土・日 11:00~18:00)

※23日(水)は休催

会場 SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B・Cほか全館

主催 株式会社クラグラ、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

参加費 一般2,000円、学割1,500円

※対象年齢は中学生以上、小学生以下は大人同伴での参加

株式会社クラグラの企画・開発による、札幌市民交流プラザの館内を使った周遊型の謎解きイベント。参加者は謎解きキットを購入し、3階のクリエイティブスタジオ外壁にまつわる謎や、札幌市図書・情報館内のロッカーの謎、SCARTSスタジオに仕掛けられた照明システムの謎など、館内各所にまつわるさまざまな謎を順に解きながら、1階SCARTSモールに設置された巨大なピンク色の箱の中にたどり着くことを目指しました。頭と体の両方を使い、楽しみながら館内を再発見するようなゲーム体験と謎解きの難易度・完成度の高さに、リアル謎解きゲームファンはもちろん、はじめて謎解きに参加する方からも驚きの声があがりました。

株式会社クラグラ

アナログゲームの企画・開発・販売、および謎解きゲームイベントの企画・開発を行う。Sapporo Game Spaceを運営。代表作『たった今考えたプロポーズの言葉を君に捧ぐよ。』

代表:こだまじゅんじろう、ゲームデザイナー:センバノブユキ

ワビサビ結成20周年展「ワビサビはどこから来たのか? ワビサビは何者か? ワビサビはどこへ行くのか?」

会期 2019年1月19日(土)~30日(水) 10:00~19:00(最終入場18:45まで)

会場 SCARTSコート

主催 デザ院株式会社、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

特別協賛 佐藤印刷株式会社、新東洋スクリーン株式会社、株式会社 竹尾

入場料 無料

広告代理店のアートディレクターと、デザインプロダクションのグラフィックデザイナーが、日頃の活動に満足せず、「自分たちのやりたいコトだけをやろう!」と結成したデザインコンビ「ワビサビ」。その結成20年を記念して、初期から現在に至るまでの作品を一堂に集めた展覧会を開催しました。これまでに制作してきたポスター、ロゴマーク、タイプフェイス、プロダクト、アート作品などの代表作を、制作時のエピソードや解説も併記しながら年代順に展示しました。会場壁面に大胆にあしらったグラフィックに惹かれて来場する方も多く、グラフィックデザイナーという職業の成り立ちと活動に、多くの方が接する機会になりました。

左から、工藤“ワビ”良平、中西“サビ”一志 以下、撮影:リョウイチ・カワジリ



ワビサビ／WABISABI

1999年、工藤“ワビ”良平と中西“サビ”一志によって結成されたデザインコンビ。札幌を拠点にアドバタイジングから、グラフィックデザイン、オブジェ、映像、ファッション、インテリアまで多方面での制作を行っている。デザ院株式会社所属。日本グラフィックデザイナー協会理事、札幌アートディレクターズクラブ運営委員。85TH ニューヨークADC AWARDS銀賞、TAIPEI INTERNATIONAL POSTER FESTIVAL銅賞、2011JAGDA賞、第1回東京ミッドタウンアワード準グランプリ、札幌アートディレクターズクラブコンペティション グランプリなど国内外で受賞多数。



多くの人が賑わう会場
以下、雪ミク2019 © Crypton Future Media, INC.



歴代の「雪ミク」を紹介する展示



フィギュアに色をぬるワークショップの様子



「リボンナボリンプレゼンツ 拝郷メイコ アコースティックライブ」の様子



「YAMI 1 ~ヤミチ~」撮影:原田直樹



「CE:Meets 二次創作展」撮影:原田直樹



「コスプレ&コスプレ撮影会」



「コスプレ&コスプレ撮影会」

SNOW MIKU 2019

会期	2019年2月9日(土)～10日(日) 10:00～18:00
会場	SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B・C
主催	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
入場料	無料

音楽ソフト「初音ミク」を企画・開発したことで知られる札幌の企業、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社が、毎年冬の北海道を応援するフェスティバルとして「雪ミク(初音ミク)」を主役に開催している「SNOW MIKU」。10年目となる「SNOW MIKU 2019」では、メイン会場のひとつとしてSCARTSが加わり、歴代の「雪ミク」(北海道応援キャラクター)を一挙に展示するブースや、フィギュアに色ぬりをするワークショップ、クリエイターによるトークショーなどさまざまな企画が行われました。会場には朝早くから多くの人が並び、賑わいました。

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

効果音などサウンド素材を輸入販売する「音の商社」から創業し、歌声合成ソフトウェア「初音ミク」の開発に留まらず、クリエイターに向けた製品やサービスをクリエイトしている札幌の企業。

札幌×コスプレ×マーケット サツコマ!

会期	2019年2月16日(土)～17日(日) 10:00～18:00
会場	SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B・Cほか
主催	インベーダーズクリエイティブグループ、ドラマチッククリエイション&エンターテイメント企画、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

札幌を拠点に活動するグループ「インベーダーズクリエイティブグループ」と「ドラマチッククリエイション&エンターテイメント企画」による、コスプレ、二次創作展、アートマーケットの3つで構成されたイベント。館内のロケーションを活用したコスプレ撮影会や、マンガやアニメなどのキャラクターをモチーフにした二次創作展、北海道コミティアによる見本誌読書会などを行いました。SCARTSコートではアートマーケット「YAMI1～ヤミチ～」が開かれ、気に入った作品を購入することもでき、マンガ・アニメ好きのみならず幅広い人に開かれたイベントとなりました。

インベーダーズクリエイティブグループ

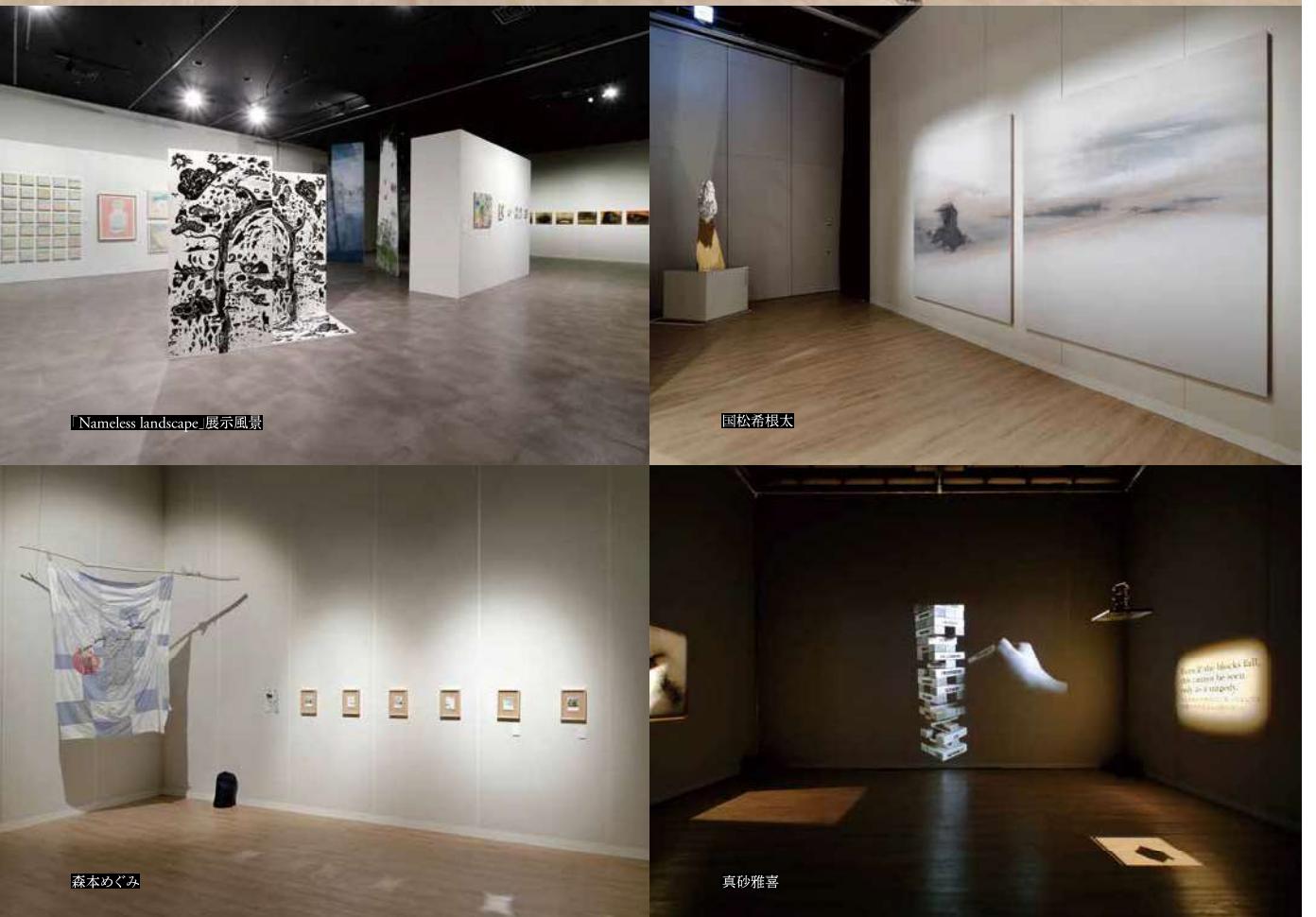
楽しいことやワクワクすることで人々を侵略するために組織された集団。札幌を拠点にコスプレ撮影イベントやコスプレダンスパーティーイベント等を開催している。

ドラマチッククリエイション&エンターテイメント企画

札幌、北海道のクリエイターと企業、またクリエイター同士の交流の場をつくり出し、北海道のアートシーンを活気づけるために2001年よりイベント団体として有志により活動開始。現在ではイベント企画のほか、イラスト、デザインなどのディレクションや制作などさまざまな業務を行っている。



「Nameless landscape」展示風景 以下、撮影:山岸せいじ



森本めぐみ

真砂雅喜

Nameless landscape

会期 2019年2月24日(日)～3月4日(月) 10:00～20:00
※初日のみ18:00～22:00、最終日17:00まで(最終入場16:45まで)

会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ

主催 石井誠・中村一典(共同企画)、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

出展者 風間雄飛、国松希根太、高幹雄、真砂雅喜、モリケンイチ、森本めぐみ、森迫暁夫、山岸せいじ、山崎愛彦

入場料 無料

石井誠と中村一典の共同キュレーションによる展覧会。「風景」をテーマに、自然の景観だけではなく、目に見えない世界や日常のふとした瞬間、遠い記憶の情景などを表現した9名の作家の作品を展示しました。作家それぞれの展示イメージをもとに、一定時間ごとに暗転する照明システムや、暗い壁面に絵画を浮かび上がらせるような照明の設置、高輝度プロジェクタを用いた大画面でのプロジェクションなどの技術的な提案やサポートをSCARTSからも行い、作家の表現がより深く観客に伝わる場を、企画者と共につくりあげていきました。会期中には作家や企画者によるトークイベントや、ワークショップも実施しました。

石井誠

1986年札幌市生まれ。京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了。美術家だけではなくキュレーターとしても活動し、「Playground」(茶廊法邑、札幌、2017年)、「Synergetics」(ギャラリー犬養、札幌、2018年)、「きらめきの結晶体／紡がれる物語」(滋賀・北海道・名古屋・京都を巡回、2018年)などを企画・主催。

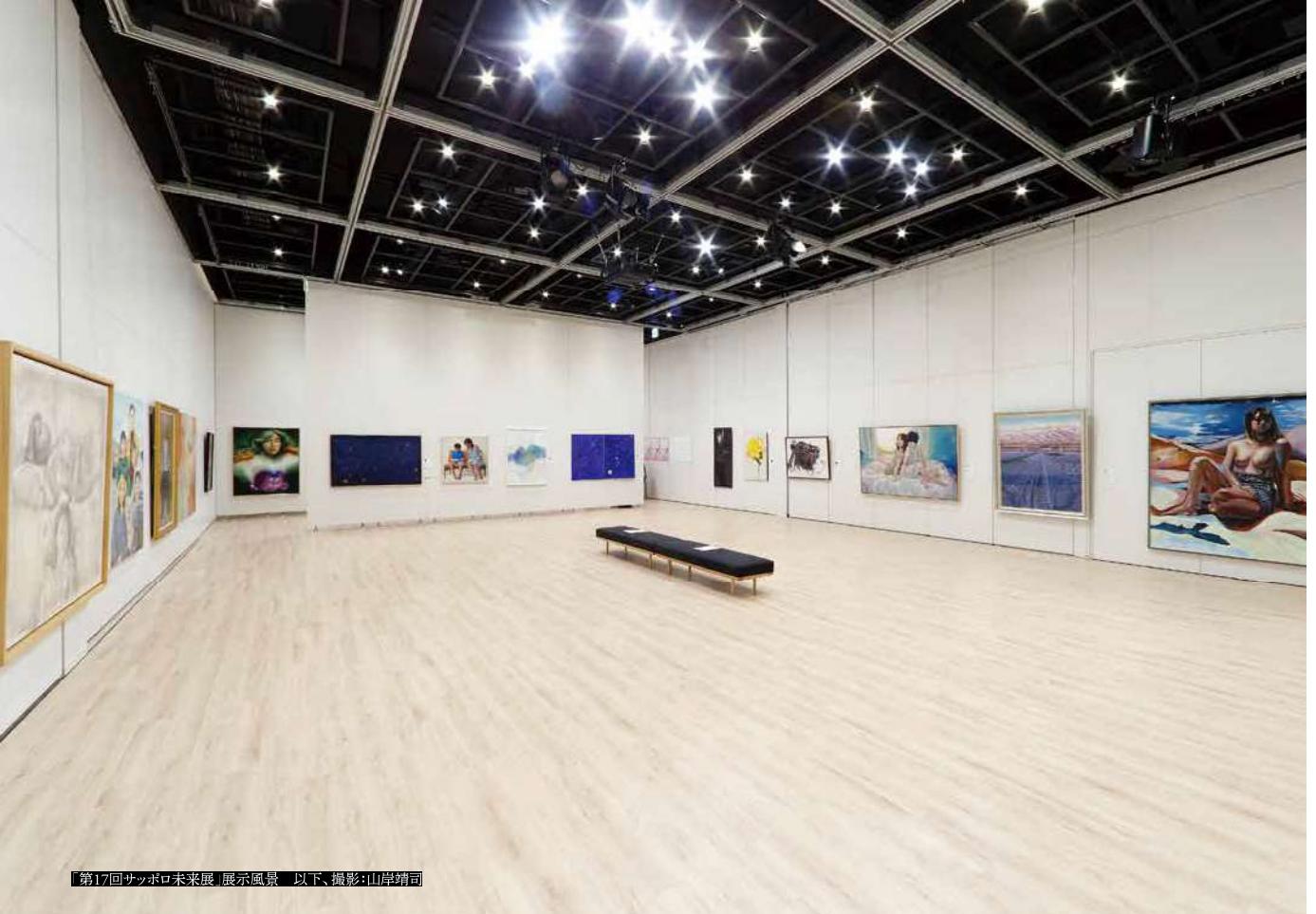
中村一典

1978年高松市生まれ。立命館大学経済学部経済学科を卒業後、2008年にTO OVcafe/gallery(札幌)を開業。2017年札幌国際芸術祭公募企画「sapporo ARTrip」、2018年「Sirkio Project」、2020年「白老、北海道の木彫り熊を巡る考察展」など、キュレーターとしてさまざまな展覧会に携わる。

第17回サッポロ未来展

会期 2019年3月7日(木)～12日(火) 9:30～19:00
プレオープン：3月6日(水) 13:00～17:00 SCARTSスタジオ／17:00～21:00 SCARTSコート
会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ
主催 サッポロ未来展実行委員会事務局、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
出展者 五十嵐千夏、石垣渉、大久保寧、大下茜、大塚真奈、大谷彩乃、小野寺彩子、柏崎健吾、加藤仁彩、
鎌田歩、河野健、菊地風起人、桑田真望、小笠鈴奈、佐々木舞、佐々木ゆか、柴田那奈、高柳惟、
田中ラオウ、西村徳清、板東桃子、船橋渚美子、三谷佳典、宮地明人、森田早紀、谷地元麗子、山本法子
入場料 無料

北海道にゆかりのある若手美術家が中心となり、毎年1回定期開催されている「サッポロ未来展」の17回展を開催しました。ふたつの会場には道内在住の作家や道外在住の作家もふくめ、全27名の作家の作品を展示し、作品やグッズの販売なども行いました。オープニングとして北海道にゆかりの深いミュージシャンによるスペシャルライブイベントを開催し、会期中には作家と交流できるトークイベントや、気に入った作品を投票してもらう「観客賞」を設置するなど、観客が美術作品や作家と関わるためのさまざまな取り組みを行いました。



「第17回サッポロ未来展 展示風景」以下、撮影：山岸靖司



ドローイングや油絵など、さまざまな作品が並ぶ



会場いっぱいに展示された作品



若手作家に発表と実践の場を与える



スペシャルライブイベント「サッポロ未来展 meets×こうの紫×bluffer×黒田鈴尊」
撮影：原田直樹

サッポロ未来展実行委員会

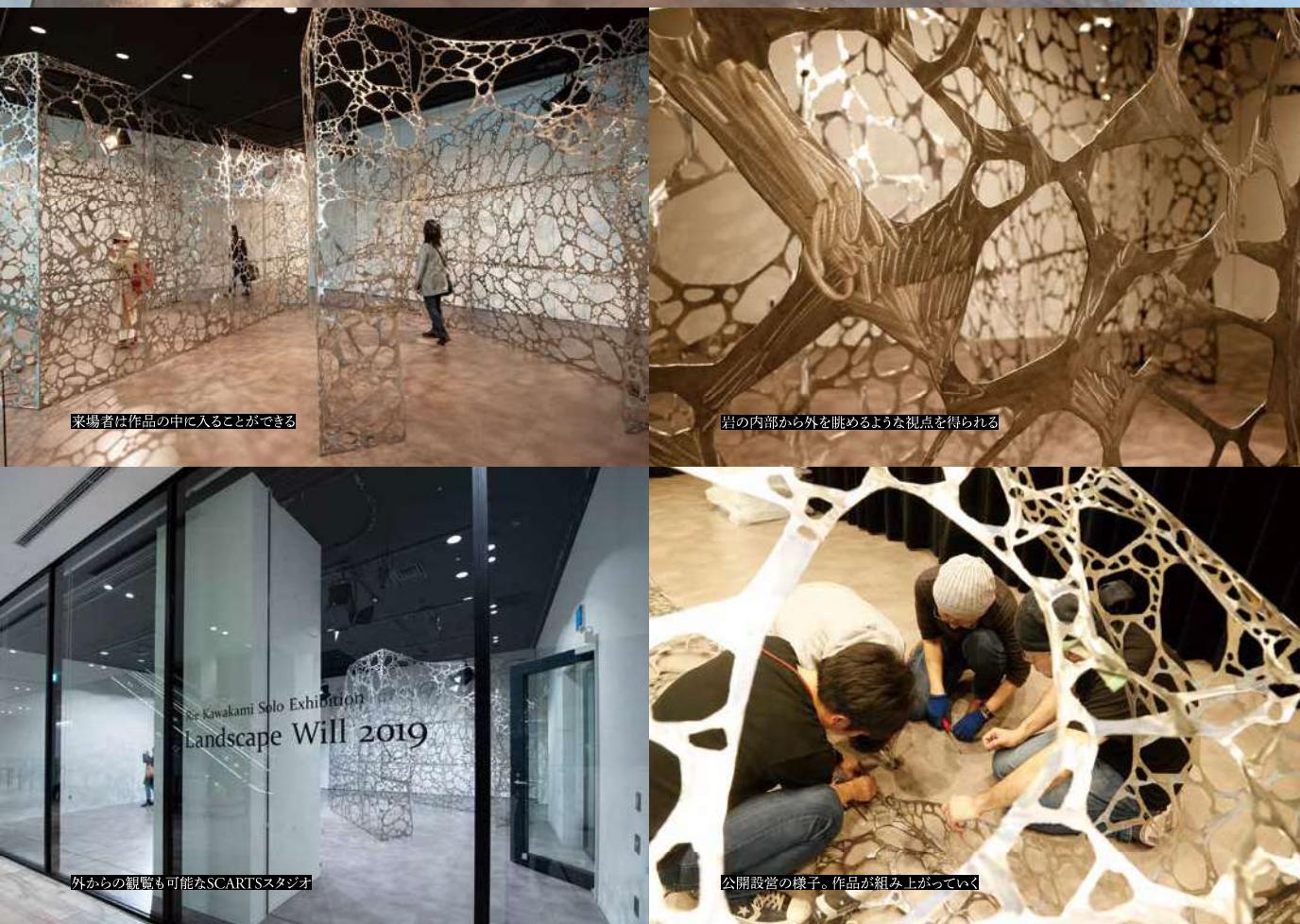
2002年発足。北海道出身およびゆかりの若手美術家が企画主体となり、「発表の場」と「企画と実践の場」を道内出身者に提供する役割を担う。当初、札幌時計台ギャラリーを会場に毎年1回の定例展を開催。第10回記念展を北海道立近代美術館で行う。第12回展はロシア・ノボシルスク開市120周年記念イベントとして迎えられ、第14回展はサハリン州立美術館にて開催。第15回記念展ではサハリンの同世代美術家を札幌市に招聘し合同展示を開催するなど、国内外の地方都市との文化的交流や海外交流事業を幅広く展開する。

川上りえ個展 Landscape Will 2019

会期	2019年3月18日(月)～31日(日) 公開設営:2019年3月18日(月)～19日(火) 展示会期:3月20日(水)～31日(日) 11:00～19:00(最終日18:00まで)
会場	SCARTSスタジオ
主催	川上りえ、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
助成	公益財団法人道銀文化財団 道銀芸術文化助成事業
入場料	無料

北海道石狩市を拠点に、一貫して金属という素材と向き合い、その多様な表情を引き出してきた美術家・川上りえによる展覧会。「大地の意思とエネルギーを感じるような情景」をつくり出したいと、巨大な岩をモチーフに、ステンレス板を素材に用いた高さ3m、幅5mに及ぶふたつの立体を制作しました。搬入時は公開制作として作業風景を公開し、会期中は会場を区切ったスペースを「Rie Kawakami Art Shop」として新作を含む小・中作品の展示販売をしたほか、アーティストトークや素材に触れるワークショップ、SCARTSアートコミュニケーターによる鑑賞プログラムなども実施しました。

「Landscape Will 2019」 以下、撮影:前澤良彰



川上りえ

1961年千葉県柏市生まれ。東京藝術大学大学院修了。鉄の背景にあるものごとを手掛かりに、美術を通して本質への問いかけを進行中。彫刻、インсталレーション、インタラクティブ・ワークという形で作品を展開。国内外でのレジデンス、展覧会活動を通して作品を発表。2012年札幌文化奨励賞受賞。



北海道教育大学・実験劇場 第8回公演 マドリガーレ・オペラ「土方歳三最後の戦い」～義に殉じた男～
撮影:小牧寿里

北海道教育大学・実験劇場 第8回公演 マドリガーレ・オペラ「土方歳三最後の戦い」～義に殉じた男～(演奏会形式)

会期 2019年3月23日(土) 16:00開演(15:30開場)
会場 SCARTSコート
主催 北海道教育大学・実験劇場、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
制作 北海道教育大学岩見沢校声楽第一研究室(塚田康弘)
協力 北海道オペラ研究所、五稜郭タワー株式会社、市立函館博物館
後援 北海道、函館碧血会、佐藤彦五郎新撰組資料館、土方歳三資料館、天然理心流試衛館
入場料 無料(要入場整理券)

北海道教育大学「実験劇場」によるオペラ公演。函館戦争終結150周年を記念し、地元・北海道の歴史をオリジナルの台本や音楽で音楽舞台化した「函館戦争」シリーズの第2作目を、イタリアで生まれたオペラの原型ともいえるマドリガーレの形式で上演しました。「鬼の副長」と恐れられた武人・土方歳三の最期を描きながら、俳句や笛を嗜んだ文人としての土方にも焦点が当てられました。上演前には、制作に携わった方々を招いてのプレ・レクチャーも行いました。

北海道教育大学・実験劇場

2005年から10年間日本を代表するオペラ演出家・栗山昌良氏を招聘してオペラワークショップ等を継続的に行ってきました成果を踏まえ、オペラ歌手育成のための次のステップとしての実践の場を提供するために、北海道教育大学岩見沢校声楽第一研究室が2014年にYoung Artists Training Programmeとして設立。北海道教育大学による文化芸術領域における地域貢献の先駆的な活動の一助として、北海道にゆかりのあるオペラ歌手たちとの協力によるオペラ舞台活動の展開を目指して活動している。



わたしたちの街の「ジュリアス・シーザー」 撮影:原田直樹

弦巻楽団 わたしたちの街の「ジュリアス・シーザー」

会期 2019年3月24日(日)～4月1日(月)
公演:2019年3月29日(金)～4月1日(月) 全6ステージ
会場 SCARTSコート
主催 一般社団法人劇団弦巻楽団、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
入場料 一般前売2,500円(当日3,000円)、学生前売1,500円(当日2,000円)、小学生前売無料(当日500円)

シェイクスピアによる史劇の傑作「ジュリアス・シーザー」を、札幌を拠点に活動する弦巻啓太の企画・演出で上演しました。3月24日～28日の公開制作期間中は、キャストやスタッフが劇をつくり上げる様子を見学するだけではなく、小道具の制作などに参加することもでき、多くの市民が参加し、共につくる作品となりました。舞台美術は、美術家の高橋喜代史が担当。舞台の両側を囲むように客席を配置し、役者と観客が交流できるようにするなど、ユニークな上演を行いました。

弦巻楽団

2003年に脚本家、演出家の弦巻啓太が「様々な演劇人とのコラボレーションの場」として設立。ウェルメイド・コメディを中心に、社会問題を描いた会話劇や、人生の迷走しない切なさを描いた作品、さらには宇宙を冒險するSFと、さまざまなジャンルの作品を上演。わかりやすい語り口と奥深い洞察を兼ね備えた内容で、札幌演劇界で独特の地位と支持を得ている。札幌以外での公演も活発に行い、道内のみならず東京、三重、愛知、京都、大阪、北九州でも上演。近年は中学・高校への芸能鑑賞としても各地へ招聘され、海外公演も行っている。



鮭箱を使って制作した楽器やサングラスなど、ユニークな製品が並ぶ。以下、撮影：辻田美穂子



多くの人でにぎわう会場



ライブ 出演：Vo./Gt./Uke. 古館賢治、Ba. 朝倉“Oshow”尚和、Per. 大山賢司



スタンプワークショップ



ARAMAKIのふたり。左から、鹿川慎也、村上智彦

ARAMAKI WORLD+SHAKE SUMMIT

ARAMAKI WORLD

会期 2019年12月2日(月)～9日(月) 10:00～20:00

SHAKE SUMMIT

会期 2019年12月7日(土) 11:00～17:30

会場 SCRATSコート

主催 ARAMAKI、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

協力 鈎路スチレン株式会社、株式会社マルア部商店、株式会社丸亀、鈎路東水冷凍株式会社

出演 ライブ：

古館賢治(ボーカル、ギター、ウクレレ)、朝倉“Oshow”尚和(ベース)、大山賢司(パーカッション)

トークショー：

ARAMAKI(村上智彦、鹿川慎也)、佐々木信(3KG代表)、白崎亜紀子(司会／FM e-niwa)

入場料 無料 ※ワークショップは有料

あらまきさけ
北国の伝統的な保存食「新巻鮭」の木箱の魅力に惚れ込み、役目を終えた木箱を生かして新しいものづくりを行うクラフトマンユニット「ARAMAKI」による企画。鮭箱を使って制作した鳥居や社殿などを会場に設え神社に見立てた空間で、これまでに制作してきたさまざまな製品や楽器の展示販売を行う「ARAMAKI WORLD」では、2015年から始まった彼らの活動を紹介しました。また、鮭箱を使ってつくられた楽器での生演奏や、鮭箱用の印刷に使われる輪転機の版を利用したスタンプワークショップ、トークショー等を多数開催した「SHAKE SUMMIT」を通じて、食文化や産業の大切さと、新しい豊かさや未来のものづくりについて考えました。

ARAMAKI

社寺建築の伝統的な技術と知識、デザインを軸に幅広く活動している宮大工の村上智彦と、ギターとベースを中心とした楽器の製作と修理を手掛ける楽器職人の鹿川慎也によるクラフトマンユニット。役目を終えた新巻鮭の輸送用の木箱の魅力に惚れ込み、新巻鮭を取り巻く食文化そのものをものづくりに反映し、日々の暮らしの中から新しい豊かさを育てることを目指して、鮭箱を使ったさまざまな製品を開発し活動している。



「ボーダレスアートinスカーツ」 以下、撮影:原田直樹



さまざまな作品が並ぶ展覧会会場



販売ブース



ワークショップ「エコバッグを作ろう!」の様子



作品に触れて遊ぶことのできるコーナーも

ボーダレスアート in スカーツ

会期 2020年1月18日(土)～21日(火) 10:00～19:00(最終日17:00まで)

会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B

主催 北海道ボーダレスアート実行委員会、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

後援 北海道、札幌市、札幌市教育委員会、北海道アールブリュットネットワーク協議会

入場料 展示、トークライブ:無料

ワークショップ:500円／100円

「障がいのあるなしの境界を越え、表現者として同じ場に立てる場所をつくる」ことを目指し、北海道内の障がいのある人のアートを支援する団体が立ち上げた「北海道ボーダレスアート実行委員会」による展覧会。各団体からの出展者と、一般公募の作品とを合わせた101名の方の作品を展示したほか、トークライブやワークショップ、グッズ販売などを行いました。



「8人の女たち展」企画者と参加作家 以下、撮影:酒井広司



「8人の女たち展」展示風景

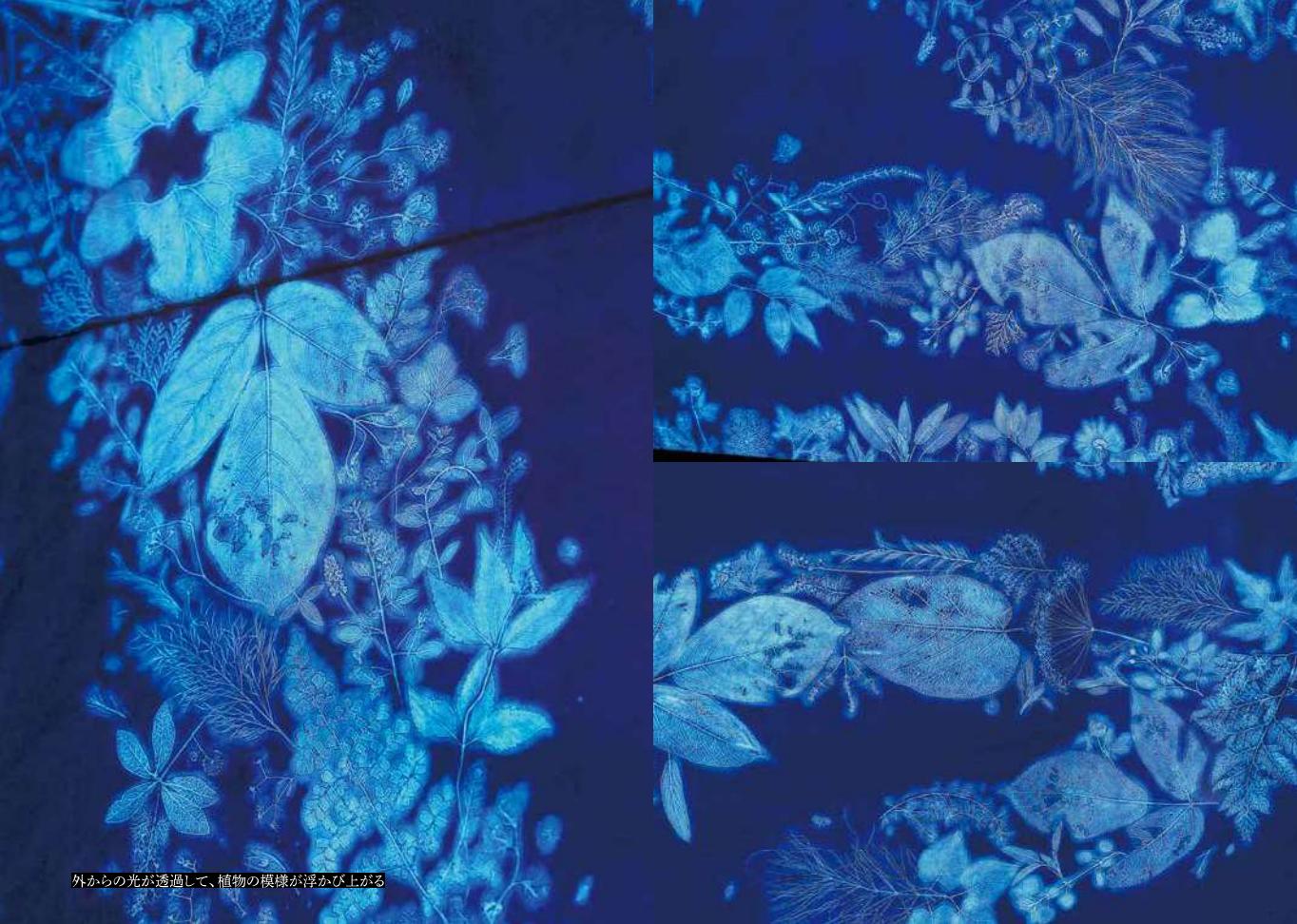
8人の女たち展

会期 2020年2月14日(金)～19日(水) 11:00～19:00(最終日17:00まで)
会場 SCARTSコート
主催 叶多プランニング、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
出品者 蒼野甘夏、伊藤千織、蒲原みどり、下村好子、篠井乃理子、船山奈月、三木万裕子、渡邊希
入場料 無料

北海道を拠点に、企画・デザイン・プロデュースにとどまらずさまざまな取り組みを行っている叶多プランニングの企画による展覧会。タイトルは、札幌を拠点に活躍する8人の女性クリエイターを、それぞれ個性豊かな女優たちの演技に賞が与えられたフランス・オゾン監督の映画『8人の女たち』になぞらえたもの。絵画、プロダクトデザイン、テキスタイル、陶芸、木のうつわ、漆工芸、建築など、異なる個性と質感を持つ作品が展示され、それぞれの作品が響き合うように構成された空間に足を止める人や、暮らしに結び付いた作品を買い求める人も多く、会期中には参加作家によるトークも行われ、多くの人を集めました。

有限会社叶多プランニング

北海道の人と風土に根ざした「ライフスタイルや社会環境づくり」を目的に、「この北海道で何ができるであろうか」を自社で問い合わせしながら、企画・デザイン・プロデュースにとどまることなく、さまざまな取り組みを行っている。



齋藤玄輔 THIS PLACE・THIS TIME 2020 sapporo

会期 2020年2月23日(日・祝)～3月29日(日) 9:00～22:00

会場 SCARTSモールC

主催 齋藤玄輔、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

入場料 無料

齋藤玄輔による、高さ10m、幅20mのSCARTSモールCの大窓全面を覆う巨大な版画作品の展示を行いました。北海道に自生する植物を採取し、押し花にしたものから版をつくり、カーボン紙をのせ、インク面を削り落としていく版画手法を使って制作された作品は、日中はインクが削られた部分に光が透過し、植物の姿が浮かび上がります。離れて見ると大きな渦巻き状の連なりが現れ、時間によって見え方が変化する、その場所と時間でのみ鑑賞できる作品となりました。

齋藤玄輔

1975年旭川市生まれ。2012年にTemporary space(札幌)、2017年に中原悌次郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー(旭川)で個展を開催。「語り合う相手としての自然-Conversing with Nature-」(アルテビアツア美唄、美唄、2011年)や「★muse★land☆tomorrow 2013 サークル〇オブ〇アート」展(北海道立近代美術館、札幌、2013年)に招待出品。2018年には、「JRタワー・アートプラネット・グランプリ2018」展(プラニスホール、札幌)にて、グランプリを受賞。